

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：23302

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K10714

研究課題名（和文）主体的に考える力を養う看護系初年次教育の実践的研究

研究課題名（英文）Practical Research on First-Year Experience that Leads Nursing Students to Active Learning

研究代表者

垣花 渉 (Kakihana, Wataru)

石川県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：60298180

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、主に次の三点であった。第一は、思考力と協働する力を育成する「探究学習」の授業モデルを構築することであった。第二は、構築した授業モデルの有効性を検証するため、思考と協働の観点に基づく評価基準（ルーブリック）を開発し、パフォーマンス評価を行うことであった。第三は、「探究学習」の授業実践力を高める研修法を開発し、その機会を広く提供することであった。これらの目的を、研究期間中にほぼ達成することができた。本研究の遂行により、開発した「探究学習」の授業モデルは、教師・学生間、または学生同士のコミュニケーションの活性化に有効であることを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ディシプリンとコミュニケーション作法の強化により、従来の看護系初年次教育では得られなかった主体的な学習態度へ導く学習方法を明らかにすることができた点は、学術的意義である。このことは、学ぶ意欲や興味を導出し、自己認識・社会認識の形成に役立つ観点により、社会的意義は大きいものと考えられる。

研究成果の概要（英文）： The aim of this research were the following three points. First, we contracted the exploratory leaning program to promote critical thinking and collaboration. Second, we developed rubric to assess nursing student performance during exploratory leaning. Third, we crated a training program for exploratory leaning, and shared that program for teachers.

We almost achieved the three main purposes during the research period.

研究分野：応用健康科学

キーワード：初年次教育 探究的な学習 ルーブリック パフォーマンス評価 アクティブラーニング 授業科目間連携

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究を計画した当初、卒業時の看護実践能力を強化する「探究学習」のカリキュラムは整備されていなかった。そのために、講義や実習などをとおして、学生の看護への動機づけを高めることはできたとしても、意欲として定着させ、主体的な学修態度へ導くことは難しかった。「探究学習」に本来期待される教育成果を挙げるために、解決すべき課題として、次の項目が挙げられた。

(1)「探究学習」を継続的かつ重層的に促す授業科目間の連携体制が存在しなかった。そのために、入学後の早期体験学習(early expose)によって高められた看護への興味・関心を、専門課程において主体的に考える力へ導けたのかは疑わしかった。

(2)効果的な探究の前提となる「問いを立てる・しらべる・読む・集めた情報を分析する・議論する・論理を組み立てる・書く・発表する」という一連の学問の思考法(ディシプリン)を伝えないままスタディスキルを学ばせることが多かった。そのために、「探究学習」により能動的な学習へ導くどころか、高校までの受け身の学修態度を助長している事例が散見された。

### 2. 研究の目的

「探究学習」の持つ教育成果を高めるために、ディシプリン、および対話によるコミュニケーション作法を修得する初年次教育カリキュラムの構築を、本研究の主な目的とした。具体的には、次の3点である。

#### (1) 授業法の開発

思考力と協働する力を育成する「探究学習」の授業モデルを構築する。

#### (2) 評価方法の開発

構築した授業モデルの有効性を検証するため、思考と協働の観点に基づく評価基準(ルーブリック)を開発し、パフォーマンス評価を行う。

#### (3) 教員向け研修会の実施

構築した授業モデルに依拠した初年次教育を実践するためには、「探究学習」の理論と技法を十分に理解した教員の育成が重要となる。本研究では、教員の授業実践力を高める研修法を開発し、その機会を広く提供する。

### 3. 研究の方法

1年前期に初年次教育科目を据え、座学と実習の連動によりディシプリンを育成する。座学において、「読む・書く・調べる・発表する」スタディスキルを習得する。実習において、スタディスキルを活用し、学生と地域社会の協働によりフィールドワークを計画・実践する。その体験の過程を省察し、学習成果を発表し、報告書にまとめる。1年後期に教養科目と専門科目の連動によりディシプリンを強化する。併せて、言葉により社会や人間との関係をつくり、自分の意思を伝え、他者の意思を理解することを学ぶ。

ルーブリックの開発において、思考では情報収集・原因分析による課題発見力、および目標設定・段取り構築・計画評価による計画立案力をしらべる尺度を開発する。協働では協働に対する認識、および仲間同士の信頼関係をしらべる尺度を開発する。パフォーマンス評価を「探究学習」の開始時・中間時・終了時に行い、診断的評価および総合評価として定量化する。併せて、授業実践の形成的評価を行うため、授業記録紙をもとに定性的に分析する。

「探究学習」への教員の経験知を高めるために、アクティブラーニングの授業実践に関する教員向け研修プログラムを開発し、異分野の教員同士が授業実践の問題や課題を議論する研究会

を開催する。

#### 4. 研究成果

上記の研究目的に沿って本研究の成果を列挙する。

##### (1) 授業法の開発

本研究では、1年前期の初年次教育科目において、「読む・書く・調べる・発表する」スタディスキルを活用してディシプリンを体験する機会をつくることができた。併せて、ディシプリンの理解およびコミュニケーション作法の修得を目指し、1年後期において PBL(Problem-based learning)に協同学習の「話し合い」技法を融合した「探究学習」の新しい授業モデルを開発した。さらに、1年次の「探究学習」に関する授業科目同士が有機的に結びつき、ディシプリンおよびコミュニケーション作法を強化する科目間連携の体制を構築した(図1)。

石川県立看護大学の初年次教育～探求の経験～

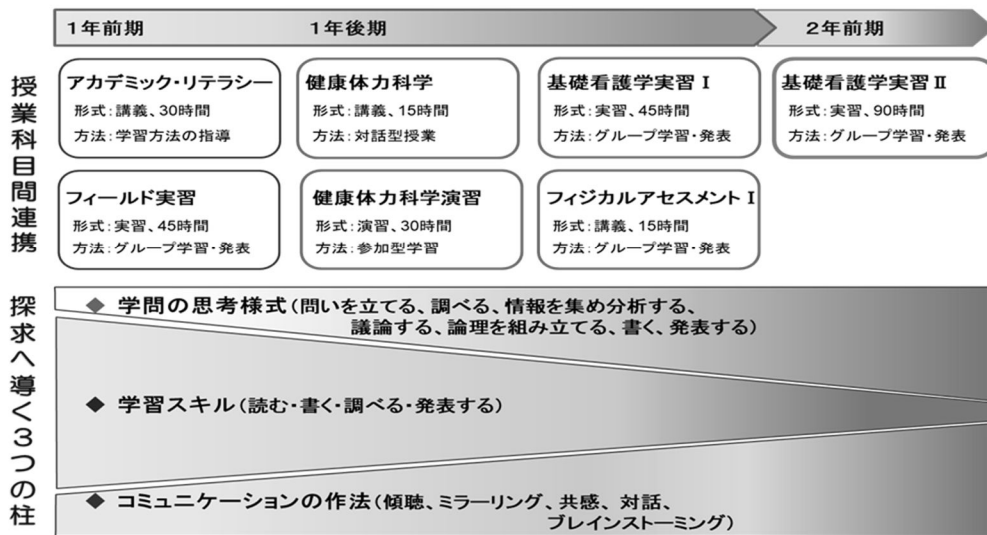
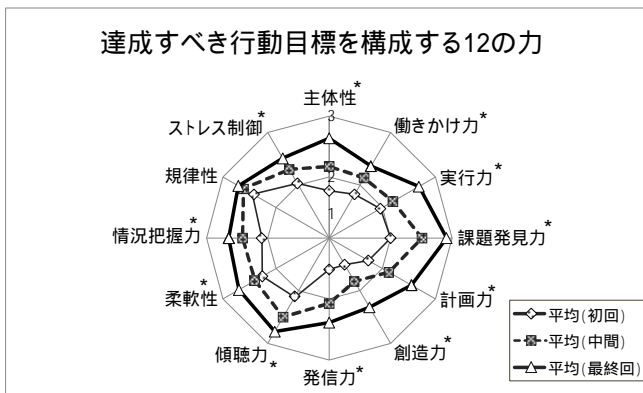


図1. 「探究学習」を継続的かつ重層的に促すための科目間連携

開発した「探究学習」の授業モデルを双方向性で取り組むとともに、学習支援システム(LMS)および授業用 web サイトを活用したことにより、教師 学生間、または学生同士のコミュニケーションを活性化することができた。その結果、学生の特性的自己効力感は、授業前と比べて授業後に増強した( $P < 0.001$ )。併せて、協同学習の認識のうち「切磋琢磨」の因子が向上した( $P = 0.012$ )。本研究の実施により、「探究学習」を継続的かつ重層的に促す授業科目間の連携の必要性に関して、垣花・瀬戸(2022)に記した。

##### (2) 評価方法の開発



思考と協働の観点に基づくルーブリックを活用し、「探究学習」の開始時・中間時・終了時にパフォーマンス評価を行った。その結果、「探究学習」の進捗に伴い、思考力および協働する力が向上したことを確認した(図2)。

図2. 行動目標を構成する力の変化

\* 初回と中間および中間と最終回の間で有意差あり(危険率5%)

### (3) 教員向け研修会の実施

「探究学習」の授業実践力を高める研修法を開発し、その機会を「初年次教育実践交流会 in 北陸」として、研究期間中に1回、計4回開催した。参加者は毎回50名程度であった。研修会に対する参加者の満足度について、概ね良好の回答を得た。詳細については、初年次教育学会ニュースレターを参照いただきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 垣花渉, 瀬戸清華	4. 巻 15
2. 論文標題 看護学生を能動的な学習へ導く探究学習の実践研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 初年次教育学会誌	6. 最初と最後の頁 50-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 垣花渉, 西村秀雄, 大嶋康裕, 渡邊淳子	4. 巻 15
2. 論文標題 「双方向型の授業」を問い直す コロナ禍での遠隔授業の経験をきっかけとして	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 初年次教育学会誌	6. 最初と最後の頁 37-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本元啓, 西村秀雄, 垣花渉, 大嶋康裕	4. 巻 14
2. 論文標題 コロナ禍におけるオンライン初年次教育の試みと失敗、そしてその再構築	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 初年次教育学会誌	6. 最初と最後の頁 10-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 垣花渉	4. 巻 13
2. 論文標題 学生コミュニティが果たす初年次教育の役割ーコロナ禍で新入生を支援した学生自治会の事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 初年次教育学会誌	6. 最初と最後の頁 33-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 垣花 涉
2. 発表標題 学生と高齢者が協働する「健康長寿のまちづくり」
3. 学会等名 日本世代間交流学会第13回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 垣花 涉
2. 発表標題 看護学生を能動的な学習へ導く探究学習の実践研究
3. 学会等名 初年次教育学会第15回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 垣花 涉
2. 発表標題 双方向的なコミュニケーションによるスポーツ実技の授業改善
3. 学会等名 初年次教育学会第15回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 垣花 涉
2. 発表標題 実技科目における遠隔授業の適合および限界
3. 学会等名 初年次教育学会第14回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 垣花 渉
2. 発表標題 学生の、学生による、学生のための新入生支援－学生自治会の取組
3. 学会等名 2020年度「初年次教育実践交流会 in 北陸」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 垣花 渉
2. 発表標題 看護学生の主体的に学ぶ力を育てる地域早期体験
3. 学会等名 初年次教育学会第12回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

#### 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	澤田 忠幸  (sawada tadayuki)  (50300447)	石川県立大学・生物資源環境学部・教授   (23303)	
研究分担者	石川 倫子  (ishikawa noriko)  (80539172)	石川県立看護大学・看護学部・教授   (23302)	
研究分担者	西村 秀雄  (nishimura hideo)  (70208221)	金沢工業大学・基礎教育部・教授   (33302)	

#### 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------